

シノケン東海大が世界戦3連覇に挑む

9・22開幕「南ア・ソーラーチャレンジ」出場を発表

東海大学は2日、チャレンジセンター・ライトパワープロジェクトが「サウス・アフリカン・ソーラーチャレンジ2010」(9月22日-10月2日=南アフリカ)に出場すると発表した。学生12人を中心にしたチーム構成で、ドライバー兼特別アドバイザーに篠塚建次郎が就く。同大は08年のサウス・アフリカンで初代王者となり、昨年は豪州のグローバルチャレンジも制してソーラーカーの世界戦で2連勝中。目指すは3連勝だ。

東海大工学部OBで、日本を代表するラリードライバーの篠塚を迎えてから、東海大のソーラーカーは負け知らず。「競争の世界は今までのことは関係ない。とにかくチームの全員がベストを尽くすことが大切。まったく新しいレースをするつもりで挑みたい」と力説する篠塚アドバイザーの叱咤(した)激励が、学生にも浸透しているからだ。

南ア大会は総走行距離がソーラーカーレース最長の4000km超。海沿いで天候の悪い場所や未舗装路も予想され、国際大会連勝中の東海大とて、挑戦者の気持ちを失えば足をすくわれかねない。そんな勝負の怖さを痛いほど知っている篠塚の存在は精神的な支柱になっているのだろう。

参戦車両の「Tokaiチャレンジャー」は、シャープなどの協力で製作されて豪州大会を制したものと基本は同じ。「(南ア大会の)ルールに合わせ、全高を上げたり、前照灯を装着。また、雨対策なども施しました」と同大電気電子工学科教授の木村英

樹監督。そして「車両は大きく変わっていませんが、サポート部隊は進化。昨年の経験は大きい」と、半数の6人が経験者で構成される学生スタッフの成長をアピールした。



南アのレース挑戦を発表した東海大チーム。後列左から3人目が篠塚、4人目が学生代表の伊藤、5人目がアドバイザーの木村教授

走行距離最長の4000km超、未舗装道路も

今月4日にコンテナ船で南アへ向けて車両を送る。スタッフは9月中旬に日本をたち、世界大会3連勝の偉業に挑む。学生リーダーの木村樹(工学部動力機械工学科3年)は

「高低差が激しく、昨年(豪州での大会)より過酷な戦いになると思う。でも、昨年勝ったTokaiチャレンジャーでまた勝ちたい」ときっぱり。箱根の倍となる1800mもの高低差のあるコースを、チーム一丸で攻略する決意だ。(田村尚之)